

サンシチニンジン

大分類	植物由来	
学名・別名	サンシチニンジン (三七人參) <i>Panax notoginseng</i> (Burk.) F. H. Chen (英) <i>panax pseudoginseng</i> うこぎ科 [オタネニンジン属] デンシチニンジン (田七人參) と呼ばれる。	
構造式	ginsenoside →オタネニンジン参照	
概要	サンシチニンジンとは、16世紀ごろ中国で初めて漢方書に記載され、5000年も前から使用されているチョウセンニンジンとは成分や性質が多少異なる。サンシチニンジンには止血作用があり、主として外傷の治癒性ハーブとして使用されてきた。また現代では、心臓病に対する作用が報告されている。他のハーブと組み合わせての前立腺がんへの応用の臨床研究結果もいくつか報告されており、さらに科学的根拠が明確になれば、期待できる素材の一つである。	
Keyword	止血, 強心, 高血圧, 心筋梗塞, 冠状動脈疾患, 狭心症, 脳出血, コレステロール, 消化管出血, 消化性潰瘍, 痔, めまい, 中枢神経刺激, 自律神経失調症, 免疫力, 不正出血, 産後の瘀血腹痛, 腎炎, 肝臓, 打ち身, 捻挫, 打撲, 腫痛出血, スキンケア, 美肌, 鼻血, 肺の出血, 扁桃腺炎, 喉の痛み, 肥満, がん, 滋養強壮, 疲労回復, 抗炎症, 痛みや腫れの軽減, デンシチン, ジンセノシド。	
主な成分	サポニン配糖体 3~8% を含み、その主成分はジンセノシド (ginsenoside) Rb ₁ , Rg ₁ , Rg ₂ である。そのほかに少量の Ra, Rb ₂ , Rd, Re を含み、Ro はないかあっても極めて微量である。精油成分は高麗人參に比べてその種類は少なく、パナキシノール (panaxynol), β-シトステロール (β-sitosterol) は人參同様認められる。デンシチン, パナキサトリオールサポニン。	
疾病予防・効果・欠乏症など	循環器・血管系	<ul style="list-style-type: none"> 止血⁽²⁶⁾, 強心作用があり^(9,17,18), 高血圧, 心筋梗塞^(9,18), 冠状動脈疾患^(17,18,20), 狭心症^(10,17,18), コレステロール過多^(18,64), うっ血⁽⁶⁴⁾に用いられる。漢方では咯血, 吐血, 鼻血, 血便, 子宮出血などの出血や出血を伴う外傷, 胸部や腹部の刺すような痛み, 冠状動脈性心疾患などに用いられる^(23,64)。近年, 動物実験の止血作用に加えてデンシチンが凝固時間を短くすることが実証され, 止血薬としての使用の正当性が証明された。一方で, 他の条件下で抗凝固性と抗血小板凝集性も示している。最近の研究では生のサンシチニンジンには高脂血の低下作用がある⁽²³⁾, 血圧調節, 狭心症, 脳出血に効果がある⁽²⁵⁾, 花は血圧を下げる目的で用いられる, 止血に外用で用いられる⁽⁶⁴⁾等の記載がある。
	消化器系	<ul style="list-style-type: none"> 消化管からの出血に用いる⁽²⁰⁾, 痔に用いる⁽⁶⁴⁾, ラットで抗潰瘍性があった⁽²³⁾等の記載がある。
	神経系	<ul style="list-style-type: none"> めまいに花を摂取する^(20,64), パナキサトリオールサポニンによる中枢神経への刺激作用がある⁽²³⁾, 自律神経失調症に効果があるとされる⁽²⁶⁾等の記載がある。
	免疫系	<ul style="list-style-type: none"> 煎じ液はNK細胞, マクロファージの働きを刺激した⁽²³⁾との記載がある。
	生殖系	<ul style="list-style-type: none"> 女性の不正出血⁽¹⁸⁾, 子宮からの出血⁽²⁰⁾, 産後の瘀血腹痛⁽¹⁸⁾などに応用する。
	内分泌・代謝系	<ul style="list-style-type: none"> ラットへの粉末経口投与は過酸化脂質形成を著しく低下させ, 脳組織中のスーパーオキシドジスムターゼ(SOD)活性を大幅に増加したが, 心臓, 肝臓, 肺などの組織では起こらなかった⁽²³⁾との記載がある。
	泌尿器系	<ul style="list-style-type: none"> 慢性腎炎では尿の潜血反応が陰性化したという報告がある⁽²⁶⁾との記載がある。
	肝臓・胆のう	<ul style="list-style-type: none"> 慢性肝炎, 急性肝炎⁽¹⁸⁾等の肝疾患にも用いられる, 慢性肝炎や肝硬変ではGOT, GPT値の低下がみられたという報告がある⁽²⁶⁾との記載がある。
	筋肉・皮膚・関節	<ul style="list-style-type: none"> 腫れを消し, 止血作用があるため, 打ち身, 捻挫⁽¹⁸⁾, 打撲^(9,18), 腫痛出血⁽¹⁸⁾に用いられる。中国では外傷治療用のハーブとして最も重要なものの一つである⁽¹⁰⁾, 血管拡張作用と黒ずみ除去作用のため, 伝統的にシャンプーやスキンケア製品に使用される⁽²³⁾, 美肌効果があるとされる⁽²⁶⁾等の記載がある。
	感覚器	<ul style="list-style-type: none"> 鼻血に用いられる^(18,20)との記載がある。
	呼吸器系	<ul style="list-style-type: none"> 肺の出血, 扁桃腺炎に用いられる⁽²⁰⁾, 花はときに, 喉のヒリヒリした急性の痛みに対して用いられる⁽⁶⁴⁾との記載がある。
	肥満	<ul style="list-style-type: none"> 減肥効果があるとされる⁽²⁶⁾との記載がある。
	がん・悪性新生物	<ul style="list-style-type: none"> PC-SPES (サンシチニンジン, ウォード, カンゾウ, レイシ, オウゴン, キク, ノコギリヤシ配合の製品) が経口で前立腺がんを使用される⁽⁶⁴⁾, マウスを用いた実験では, エキスにより皮膚がん, 肺がん, 肝がんの発生が抑えられた⁽²⁶⁾等の記載がある。

植物由来

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・粉末は強壯薬処方に用いられ、通常は錠剤またはカプセルにして用いられる⁽²³⁾、滋養強壯、疲労回復に効果があるとされる⁽²⁶⁾、抗炎症作用がある⁽²³⁾、痛みや腫れを軽減する目的で用いられる⁽⁶⁴⁾等の記載がある。 					
ヒトでの科学的実証	<ul style="list-style-type: none"> ・サンシチニンジンのヒトでの有効性については十分な科学的実証が得られていない。 					
安全性	過剰摂取など	<ul style="list-style-type: none"> ・サンシチニンジンはクラス 2b (妊娠中は不可)⁽²²⁾。妊娠中に用いてはならない⁽²⁰⁾。 ・サンシチニンジンは特定のハーブの調合物として経口で摂取する場合、おそらく安全であろう(B)。ただし、サンシチニンジンの安全性については、十分な情報が得られていない⁽⁶⁴⁾。 ・妊娠中および授乳中の使用の安全性についてはたぶん安全でない(D)。禁忌である⁽⁶⁴⁾。 				
	相互作用など	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓、循環器系に効果を有するハーブや薬剤とサンシチニンジンの併用は、予期せぬ副作用の発生や有効性の抑制などの可能性があるため、避けるべきである。また、心臓機能の臨床検査の値に影響を与えることが考えられる⁽⁶⁴⁾。 ・参考文献中に他の食品との相互作用、疾病などの健康状態に対する影響は記載がない。 				
性質及び製法	<p>薬用部分は根(三七人參<サンシチニンジン>)、三七<サンシチ>、田七<デンシチ>)。3～4年生の根を開花する前、もしくは11月に掘り上げ、水洗後ひげ根と地上部を除き陰干しにする。中国雲南省南部～広東省西南部特産。高さ30～60cmの多年草、紡錘形で肉質の主根を持つ。花期は6～8月。</p>					
法規・指針	[非医薬品] 利用部位は根。					
総合評価	安全性	0	有効性	0	総合評点	0